

ガルパンってなによ？ただの大洗の生徒よ(現在、更新遅れ中

白桜

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

黒森峰女学園の戦車道全国高校生大会10連覇を阻止された翌年、とある女子が県立大洗女子学園……長いな、大洗に転校してくる。その女子が大洗にて逃げてきたはずの戦車道に偶然に再会しいろいろとあり再び戦車道の世界に戻ることになる。

のちに伝説となる大洗戦車チームを率いる女子のお話である。

「で、よかつたつけガールズ&パンツアーツ？」

注意！上のあらすじはまったく関係ないですこの話は。

大洗学園に転校した私。

学園に新しい風が吹いてるみたい。

なにやら生徒会長は戦車道を復活させたつて。

戦車道を遠くから眺めるのは楽しいから、このままでいいや。時たま、ふらつと消えるけどみんな気にしないでね。

(元タイトル・ガールズ&パンツアーツなんだつけ？(仮))

目次

もし転校先が違つたら？（別ルート的な存在）

もし転校先が違つたら？（聖グロリアーナ女学院編）

大洗学園の日々

ガールズ＆パンツアートってなんだつけ？
（仮）

6

何やら戦車道復活したんだね。これでようやく話が進むってカン
ペにあるよ（進む・・・・・はずよ）

Q

鞍車道の授業が始まるねそろそろ
私? 二道の用意しないとね

16

（）我車道受業で我車我闘があるが、少く見てみた、又

そうそう、戦車道を選んでない子でも事前に申請してたら見学して

もいひんだつて

戦車道授業に講師と言う名の教官が来るんだね。…………嫌な予感、い

きなり模擬戦しそう

実戦に訓練より良いと言ふにと……模擬戦を最初からするのはどう

太政官

急な機攤單が珎れ様みんな
そ二言は聞いた記得と……單車

卷之三

49

もし転校先が違つたら？（別ルート的な存在）

もし転校先が違つたら？（聖グロリアーナ女学院編）

—聖グロリアーナ女学院学園艦・演習場—

「どうします隊長？わたくし達しか残つてませんがこのままつづけますか？」

「——!?——!!」

だめですね、先ほどの被弾で通信系が死んだみたい。

何度も話しかけてもなんて言つてるかわかりませんし、この様子では向こうも同じ状態と思うべきね。

隊長に指示を聞きたかったけど……後で隊長から怒られそうね、あーこわいこわい。

まあ、その時は素直に怒られつつそつとお菓子に誘うとしましう。

隊長の食事姿、見てて楽しいからついつい誘つてしまふのよね、ちょっとダージリン様の気持ちがわかっちゃうかも。

「戦車長、隊長がハツチから顔出しますよ。何か叫んでるみますよ」

「隊長が？通信機が死んでることに気づいてくれたのね。感謝感謝

謝

いつの間にか私たちの砲手がハツチのから戻りながらそう報告してきました。

というか、今は隠れてるからつてハツチから顔出すのはいいのかしら？べつに出てはいけない理由は無いんだけど、なんだか不穏な気配がするの。

そんなことは無いと信じて私も顔を出す。

「隊長——、ちら通信系が死んでますの一!!後——！隊長とーわたくし以外生き残つてませーんの一!!」指示を——!!

「なんですかー!!わたくし達のみですの一おー!!!ぐぬぬ……ひとまぞ——」

それは突然でした。

隊長と話すためハツチから顔を出し、これからどうするか話してました。

一言二言交わしてると突然に隊長車両の間近で爆発と共に土埃に包まれていった。

少しして土埃が晴れていき隊長車両が姿現すと、白旗がぴょこつと立つのが確認できた。

……なんであと内心で呟くもすぐさま。

「操縦手！すぐに後退!! 即座撤退よ!!!」

次がくる前に車内に戻りハツチを閉めると同時に、車両が後退を始める。

後退から数秒後、先ほどまで居た場所が爆発。

すぐに後退しておかげで被害はなく、この隙に一生懸命逃げることにした。

その後について言うと、すぐに撃破されました。

逃げた先に敵車両が待ち伏せがおり私が気付いた時にはもう手遅れ、車両に白旗が立つことに。

ちなみに、隊長車両を撃破したのは自走砲からの砲撃でした。

自走砲怖い、自走砲怖い、自……

「……自走砲怖い、自走砲怖い……ん？あれ、ここはどう…？」

気づけばお茶会に参加していた、自走砲の恐ろしさに混乱してたのにおかしい。

聞いたら模擬戦終了後、戦車から降りた私がいつまでたつてもぶつぶつ呟きながら動かないから隊長が運んでくれたとのこと。

ぶつぶつしてた私はかなり暗い何かを纏いし怖かったとか、そんな私を運んでくれた隊長には感謝を。

お茶会はそれほど長くはなかつた、模擬戦の反省と先輩方からの教えが主で最後ちよこつとお茶とお菓子タイムの内容でした。

うーん、隊長は本当に愛されてるねダージリン様に。

隊長と話されてるダージリン様、オレンジペコ様や他の方達と話さ

れてる時と何か違う気がします。

隊長×タージリン様

……これはいい良過ぎるわ!!

ちよことして落ち着いた私
とても熱く興奮したのはみんなには内
緒に。

「何をしてますの？なにがありましたの？」

すわ隊長

たですわね皆さん」

いけませんわね、隊長のことを考えてテンションが高くなつてたな
んて言えません。

氣をしきりしないとね。

のはどうつて？

テサートは別腹にておへ聞くでしょう?

……戦車道は常に消費し続けてゐるの
ね。太る心配は無くてうれしい

お茶会終了後、模擬戦中に思いついた 隊長とお菓子いっしょにどうですか？作戦を実行に移したところ、隊長が他の皆さんもいっしょにとなり私たち小隊戦車長4人によるお菓子タイムと。

な女子高生つてことだつた。

そうそう、途中何度もお嬢様がする紅茶の飲み方を隊長は練習してたけど、隊長は本当に頑張り屋さん。

聖グロにふさわしいお嬢様になるつて何度も聞いてたけど、そういうことを祈りたいわ。

あきらめずに挑戦？していく姿見ると、年上である私ももつと頑張らねばいつも思うよ。

隊長達の会話をちょっと後ろから聞く帰り道、3人とも楽しそう……いいな。

私たちの小隊が出来てもう数週間経つけど、私だけどうも距離を置いてる気がする。

いえ、ちがう。

「私があけてるだけかもね」

この4人の中では私だけが学年が違う、それに1年生が私たちの隊長。

べつに私は隊長が1年だからや2年だからとかは気にしないけど、どうも周りの中には気にする人がいるみたい。

学院内だけでなく外、それはちょっとややこしい所ではつきり言つてめんどくさい。

普通に聖グロに入学してたらこんな悩みは無かつたと思うけど、私は転校してきた身。

とある戦車と共に転校したことによりそこに興味持たれた現実なのよ。

この学院にはそういうところがあるのは転校前から知つてたけど、ここまでとは……現実はめんどうなものね。

「どうかしましたの？さつきから静かですわよ」

隊長が私を見てた、いつの間に。

気づけば私と隊長との距離が思つたより離れていた。

他の皆さんは気付かないうちに別れてたみたい、別れの挨拶はしたような気はするから反射的にしたのかな。

「ゞ」気分でも悪いのですの？」

「いえ、ちよつと考え方をしてただけで問題ないですわ」

ほつとした、心の内を知られなくて。

隊長はそれつきり何も言わず歩く、時たま気になるのかうずうずなさつてる。

うずうずな隊長、それも可愛いね。

お互い何も話さない、静かな時間が流れていく。

隊長の部屋と私の部屋は少し離れておりここで別れる、隊長に別れの言葉を言い歩いていく。

「今は言えなくてもいいですわ。でも、何かお困りなら力になりますわ」

「だから……溜め込まないでくださいませ。わたくし以外にも皆、気になさつてたわ」

「きげんようと、隊長は歩む。

隊長の前にいた私、どんな表情だつたのか知らない。
だけど、その言葉には……

ちよつと話は変わりここで大洗の町についてふれる。

大洗は北関東に位置する茨城県にある港町であり、水族館や海水浴等により観光スポットかなり有名な町もある。

他にも聖グロと同じく学園艦内にある大洗女子学園と繋がりが深い町で、昔は何度もこの町で戦車道の試合が行われていたことでも知られている。

ちなみに聖グロの学園艦の母港は同じく関東にあるけど、これはいいかな?

そんな関東にいる住んでる人なら知られている大洗の町、なぜ唐突にふれたかというと……

大洗の地に私が今いるから。

「今日はいい天気、こんな日は外でお茶にするのが一番」

私たち聖グロと大洗女子学園の親善試合と書かれた横断幕を見上げながら、ここに居る理由を思い出すのであつた……

大洗学園の日々 ガールズ＆パンツアートてなんだつけ？（仮）

「本日は晴天なり」

そうふと浮かんだことを言う。

今日は雲が見当たらぬよき天氣であり、日差しによつて心地よい温度である。

私は今とても眠い、この心地よい状況のおかげで。

私は残された最後の力を振り絞つて頭を机から離すと、頭にくつつくようについた紙がひらひらと落ちていくのが見える。

机に落ちた紙はさつきまであつた帰りのホームルームにてみんなに配られた物。

選択科目を選べという内容で、剣道や戦車道といったよく見かけるものから忍道や仙道といったほかの学校には見かけないものまである。

「ん？おかしいなこれ」

おかしい、なんで選択科目内に戦車道があるんだろう。

私が通つてる学校である大洗女子学園、長いから大洗か学園でいいか。

大洗には戦車道なんてなかつたはずだけどいつの間に復活したんだろうか、私は選ぶ気がないのについ考える。

「そういえば帰りのホームルーム前にあつたあれで説明でもあつたのかな？」

そう、帰りのホームルーム前になぜか選択科目のオリエンテーションなるものが生徒会によつて開催された。

なぜかほかの選択科目は全く触れずに戦車道、それも昔っぽい映像を流し戦車道の成績優秀者には特典があると説明で終わつた謎の出来事であつた。

私は疲れで睡魔と戦闘をくりあげていたがほぼ敗北であつたために映像部分は力尽きていた。

昔っぽい映像がどんな話だつたのか今となつては気になつてしまふが、映像部分に復活した理由もそこで説明あつただろう。

「どうしようかな? どれ選ぼうかこれは重要すぎて迷うね」

「どれに人気があるのか少し知りたいな……ただ知れるとは思えなけれど」

私は普段の学園内では一人で過ごすことが多い……そう、友達がない。

友達ってなんだろうね……あーあ、周りのみんなは友達らしき人と仲良く帰っていく。

私もあーいつたことしてみたいですが、最初の1年から大洗で過ごしていたら結果が変わっていたのかなと思ってしまう。

私がここ大洗の生徒になつたのは高校2年になる前の春休みの間。世間でいう転校生になるのかな私は?

1年間一緒に居られてないけど2年生の始まりはみんなと一緒に、新しく来た私でも友達が何人か出来るはずとそう信じて新しいクラスでの生活を始まつた。

1年からの友達同士で話す子も多いなか、初めて見る私にも声をかけてくれる人は何人もいた。これなら友達できるかなつと思つていたけど、肝心の私が話をうまく続けられずに嫌われてないけど友達でもないという状況となつた。

なつたというけどそうだと私は思つていて。

友達はいいとして、ひとつどうしても知りたいことが生まれた。

それは、

「戦車道か。この大洗にそもそも戦車が残つてゐるなんて思えないけど今から用意するのかな?」

である。

戦車に限らず、あらゆるものは長くつかつたりするには点検や修理をする必要がある。

それらをするためにはかなりいるものがあるそう、お金である。それに点検や修理は1度のみでなく使い続ける間は何度もする必要があり、そのたびお金がいる。

使い続けるならまだそのためにお金を使うのはいいけど、使わないのにお金を使うとなると無駄だと判断されることも。

あと使うだけでなく所持するだけでもお金がかかる使わない、所持するだけの戦車はとてもお金がかかるだけならば少しでも大洗のために戦車を売つてもおかしくない。

戦車道を選んでも戦車がない、そんなことにならないようになるのではと。さすがに生徒会もそんなことにならないようにしてると思うけど、とても心配。

「考えるのはまたあとでいいか。今日はもう帰るしよう……友達と帰つてみたいな一度くらいは」

そういえば履修届でひとつ恐ろしい？ことが書かれてある。

それは、希望のない生徒や記載不備または提出期限を守れなかつた生徒は自動的に戦車道の選択になると下のほうに書かれている。

そんなことで忘れず問題ないように出すためにとっても重要で大事な選択科目の履修届を鞄にしまい教室から出る。

大洗に転校してから学園にある女子寮に住んでいて私はこの後特に予定がないために女子寮に戻ることにした。

学園から出ると先ほど教室の机から感じたとおり、心地のよい暖かい日差しを感じる。

日差しを浴びながら歩いていると、どこからか話し声が聞こえた。

ふと誰が話しているのか気になつて見回すが、話したと思われる人はいない。

誰なのか知りたくなつた私は声が聞こえたほうに足を向けた。

聞こえたほうに歩いていると見覚えのある3人が横に並びながら歩きつつ話していた。

どうやらちよこちよこ聞こえてたことから想像すると選択科目をどうするか話していたようだ。

そう、私もこのことについて迷つておりほかの人はどうするのか知りたく、誰が話しているのか探す。

見つけた。

3人は私とは違うクラスの子であり真ん中には私と同じく

今年になつてから転校してきた子だ。

確か、西住なんとかさんと言つたはず。

違うクラスである私はお昼時の食堂や休み時間、登下校で何度か見かけることがある。

いつも1人で見かけていた西住なんとかさんが複数人で、それも友達同士の会話をしているなんて羨ましいと思つてしまふ私がいた。

少し遠い目していただけど3人に意識を戻す。

どうやら両脇の子が西住なん、めんどくさいから西住さんでいいや。

西住さんに戦車道はどうかと進めてるようだけど、どうも西住さんは戦車道に抵抗があるみたい。

少し雰囲気が暗くなつた西住さんを見て両脇の子はそれほど強く戦車道を進めずに話を変える。

どうやら西住さんの雰囲気が戻つたようで明日のお昼ご飯を何するのかとか聞こえてきた。

選択科目についての話は終わつたようなので私は帰ろう。

来た道をまた歩き出すと同時にふと思い出したことがある。

それは、戦車道でとても有名な家がいくつかあることを。

そしてそのなかには同じ苗字がある、そう西住さんと同じ西住家である。

西住流とも呼ばれ、統制された一糸乱れぬ陣形からの圧倒的な火力にて短期決戦で敵と決着をつける戦術を得意にする。

あと西住流といえばもう一つ、戦車道の名門であり戦車道全国高校生大会9連覇という戦車道最強校の黒森峰女学園に後継者つて呼ばれている人がいると聞く。

「西住さんはもしかして、もしかするのかな？」

もしそうだとしたら生徒会から勧誘がありそうね。

選択科目のオリエンテーションや履修届から見て生徒会はかなり戦車道に力を入れてるようがわかる。

その理由はよく知らないけどきっと生徒会なりの理由があるはず、それなら戦車道に詳しい西住さんを逃さないはず。

でも、さつきの暗くなつた様子からきっと西住さんは戦車道を選ぶことはないと思う。

生徒会とはいえ無理やりに選択させることはないと思うけど、すこし気にしどう。

「さて、早く寮に戻つて何か食べよつと」

選択科目や西住さんのことを考えていたせいか急におなかがすいてきた。

部屋の冷蔵庫に何があつたつけと思い出しながら歩度を速める。

何やら戦車道復活したんだね。これでようやく話が進むつてカンペにあるよ（進む・・・・・はづよ

「本日も晴天なり。これは先週と同じよね……でも、いいか」

朝のホームルームが終わつたところでふとそう咳く。

先週と同じようなことを呟いた時とは違い、眠気には負けてない。

代わりに先週に配られた選択科目の履修届が、机に上に置かれている。

そうそう、ホームルーム始まる前も終わった今も教室内は賑やかのまま。

今日で選択科目届けの締め切りとあって、皆その話題で一色。

私はこれにしたやあの子はこれしたとか、彼方此方で聞こえてくる。

以外にも戦車道に興味を持つてる人が多いのか、戦車道の名も聞くことができる。

「これは私が思つてる以上に戦車道人口多くなりそうね」

そこまで戦車道には女子に魅力あるものなのか。

そうであれば私も選ぼうかつと、考えてしまいそうね。

因みに、机に置いてある履修届の戦車道には丸をつけてない。

私が今のところ選んだのは香道、すなわち戦車道以外を選んでる。

決めたのは昨日。

放課後になり寄り道せずに寮に戻つた私。

ご飯を食べたり洗濯したりとやることをしつつも、選択科目はどうするかを考えていた。

それらを終え、部屋にある机に履修届を置きどれにするかお菓子食べながらじっくりと考えた。

これぞというのがやつぱ無く、結局寝るまでに決まらず。

朝起きて登校するギリギリまで考えたが、決められなかつた。じゃあ何で、香道にしたつて？

理由は特にないけど、お香の知識があれば役立つかなってね。

今後の生活で疲れた時に、癒しになるかなって思ったのは内緒。

「戦車道といえば、いつも疑問に思うことがあるのよね」

私の疑問は少し置いといて、大洗で今ナウでホットな戦車道について。（表現少し古いかな…）

戦車道は華道や茶道と並ぶくらいの人気のあるもの。

世界各地に存在し、その地その場所の戦車道があるくらいなの。

と言うわけで、世界中で女子の嗜みとして受け継がれている。

我が日本では、礼節のある淑やかで慎ましく凜々しい婦女子を育成を目指す武芸となってる。

そんな戦車道にも、専門誌はある。

それは月刊戦車道と呼ばれ、今の世でも人気あると聞く。
専門誌以外にも戦車道に関する専門店があり、ここ大洗学園艦内にも1店舗あつたりする。

もう何年も戦車道がないここ大洗でよくも生き残つてこれたものと、感心するよ。

あと、戦車道にはちょっとした都市伝説もどきがある。

それは、戦車道をやるとモテるとよく女子の間で有名だけど……
実際のところ、モテるのかは永遠の謎ね。

あと、戦車道は名の通りかつてこの陸の王者であつた戦車を使う。

戦車の攻撃方法は今も昔も砲弾である。

まあ流石に、戦車が昔の実戦に使われてた砲弾は使われず連盟が公認した物を使つている。

それは、よく分らない改造の砲弾であり、戦車内にいたら直撃幾ら貰つても死ぬないとか。

ただ偵察や一時退避？等で戦車外の時に、流れ弾もらつた時はどうなるか不明らしい。

まあ、どんな対策しても戦車から撃ち出された砲弾は生身にとつてオーバーキルしかないよね。

あと戦車 자체にもちよつとした工夫があると聞く。

それは、戦車の装甲には砲弾と同じように連盟公認のものを使つて

る。

車内には安全のためよく分らないものでコーティングされ、かなり安全と聞く。かなりとつけた理由は、時たま被弾によつて火災があつたりするから。

他にも、川に落ちて浸水する可能性もある。

試合形式は、相手チームの全ての車輛を行動不能にする殲滅戦。両チームから各1輛をフラッグ車とし、相手のフラッグ車を先に行動不能とした側が勝者となるフラッグ戦の2種類がある。連盟によつて、どつちにするのか決める。

でも、フラッグ戦でなく殲滅戦になることもあるって聞いたことがある。

あと、連盟非公式であり非公認の戦車競技である強襲戦車競技もあるけど……

これは今は置いときましょう。

そうそう、さつきから何回か出てる連盟とは日本戦車連盟のことよ。

連盟の軽く説明ね。

連盟は日本国内の戦車道の指導や管理を行い、公式戦などを開催運営している組織。

高校や大学だけでなく、社会人も対象である。

今の理事長はオジサマ?とか聞いたことがあるけど見たことないなー

戦車道についてはこら辺までで、いいかな?
ちよつと話題は戻るけど。

いつも思う疑問とはそれは、どこから戦車を仕入れてくるのかとい
う点ね。

どつかの工場から買つてるのか、それとも連盟が直接販売してゐるの
か……

「私、とつても気になるんです!」

朝のホームルームから時間が経ち今はお昼！

私は今、学園の食堂にいるのであつた。

本日の私の昼食は海鮮丼、君に決めた！

選ばなかつたけど他にもあつて迷うのよね。

チーズが乗つかつてあつあつジューシーそうなハンバーアアアグ定食や金平ごぼうに納豆。

おかわりは有料のお味噌汁にご飯の定食などがあつた。

私に食レポなんて期待されても困るから食事シーンはカットカットカットカットにします。

因みに、学食の定食のご飯は大盛り無料となります。

そこの君！

腹は減つては何とかだし、多く食べてもいいのよ？

「つ!!何事?」

賑やかな食堂だけでなく学園中に突如、警報音のようなものと同時に放送が流れた。

放送内容は聞こえたが確認のため、近くの壁にあるディスプレイを見る。

ディスプレイには生徒会からの緊急の呼び出しと表示とあり、ある生徒名が表示された。

その名は。

「西住。西住みほさん」

まさか西住さん下の名前を今知ることになるとは、夢にも思つてなかつた。

少しして離れたところから席を立つ音が3つも聞こえた。

多分、呼び出された西住さんに昨日の帰り道で西住さんと共に居た2人でしょう。

西住さんは子犬っぽいか生徒会に負けそう？だけどあの2人と共であれば問題ない氣がする。

「にしても、生徒会は何で西住さんにこだわるのかな？」

「ちらつと聞いた話だと昨日、西住さんのクラスまで直接行つたと

か

「ふむ、戦車道が何か大洗に意味があるのかな?」

そして気づけば、西住さんのことが気になつていて私。

知り合いでもないんだけど……西住さんには何か秘められし魅力があるのかな?

西住さんのこれからに幸多いことを願う。

「さて、教室に戻つて授業の用意するか」

お昼のちよつとした騒動?から時間が経ち今は放課後。つて、これつてお昼でもしたような氣も?

まあ、いいか。

明日から選択科目が始まるとか、帰りのホームルームで聞いた。あと選択科目は途中で変えても問題ないって。

にしても、変えてもいいなんて変わつてる氣がするけど。因みに、さつきも言つたけど私が選んだのは弓道よ。

えつ?

さつきとは選んだのが違うつて?

それは気にしないのですよ、気にはしてはいけませんまだ履修届を出す前だつたし。

「西住さんはいつたい何に選んだろうね選択科目は?」

お昼の呼び出しにより生徒会へ行つた西住さん。

そのあとのことはわからずじまい。

多分、戦車道を選ばなかつたのが原因と思つてゐるけど呼ばれたからつて選ぶかはどうか。

まあ、明日になつたら分かることでしようけど……気になる気になる私。

「明日が楽しみね。とつてもとつても」

そうつぶやいて今日も席から立つ、今日も変わらずに1人で寮へ。

「戦車道を選べば私にも友達出来るかな……」

そんなつぶやきには何にも、反応がない放課後であつた。

戦車道の授業が始まるねそろそろ。私？弓道の用意しないとね

「本日も晴天なり。これは2日連続よね……でも、いいか」

朝のホームルームが終わつたところでふとそうつぶやく。
なぜかまた同じことをつぶやいたけど気にしない私、多分ずっとこの事を繰り返すと思うから。

今日も眠気には負けておらず、今は1時間目の授業の用意を終わったところである。

クラスの皆は昨晩は何の番組を見たとか髪型決まつてるねとか、何気ない会話でにぎやかだがその中に、今日から始まる選択科目についても聞こえてくる。

今日の最後の授業が選択科目（もう次からは選択授業でいいか。）で、予想だけど初回授業だから説明や授業内に使う物を購入するための用紙配布で終わりそう。

私は弓道（けつして香道ではないぞ！ そうだよ!!）を選んだので購入となると各自が使う弓道用の矢、弓懸、矢筒、弓道着、雪駄や弓に張るための弦や胸が怪我をするのを防ぐため胸当て等の小道具のはずね。

ここでうろ覚えな弓道情報をここで！

おおざっぱでうろ覚えなところでごめんだけ間違つてるところがあつてもそこは優しく聞いてね。

最初に弓道で使う弓は和弓と呼ばれており、アーチエリーアーで使われるものは洋弓とは長さが違う。

矢をつがえるところから矢を放つまでの動作が弓道、アーチエリーでは違つたりする。

アーチエリーについては別のところで詳しくありうるのでここでは省略。

弓道は矢を放つまでの動作のことを射法八節と呼び、実際に弓を使うときはこれを覚えないといけない。

簡単に言うと、足踏み→胴造り→弓構え→打起し→引分け→会→離れ→残心、となってる。

足踏みは、足の開くことであり姿勢の基本になり開き方は2通りある。

左足の開きは同じだけど次の右足の開き方が違うのである。

ちなみにすべての教えがそうかは分らないけど、足の開く幅は自分の矢の長さになる。

胴造りは、足踏みと共に姿勢の基本となる。

弓構えは、自分の体に向かつて真正面に構えるのと左斜め前に構える2通りがある。

この時の構え方によつて打起しと引分けが少し変わつていくけどここでは省略つす。

打起しは、弓構えで構えた状態から弓矢を持った両拳を上に持ち上げる動作で引分けは、矢が唇の高さにくるまで左右の拳を開いていくこと。

会は、矢が唇の高さにきていつたん心を落ち着かしつつ的に狙いをつけて離れて矢を放つ。

残心は、矢が放たれた後の姿勢で1度息を吸つて再び落ち着いく。おおざつぱだけどこれ以上は、もう体力の限界なので射法八節はこらへんで。

矢とかの道具類をすべて書くと疲れるから一部だけを！

上では触れてないけど、弓に関しては学校所有のを使うことが多いけど自分用を最初に買う場合もある。

矢の長さは左手の先から首の中心までとなつており人によつて長さが違うから、間違えてほかの人の矢は使わないよう注意ね。

ちよつとした話だけど弓と矢の種類には竹製のがあるけど、これはすこし高かつたりするし手入れが少し大変とも聞くよ。

弓懸は右手に装着する物で鹿の革でできてる。

湿気弱いから保存するときは弓懸の中に乾燥剤を入れるのを忘

れたらだめよ！

あと、ちょっと高かつたりするかもね？

最後に、上に触れたけど胸を怪我しないように胸当てについて。

これは胸が大きい人は射法八節の離れにて弦があたることがあるけど、この時の弦は勢いがよくとても痛い。

痛いだけで済むといいけど時によつては怪我することがあるから、必要な人は胸当てを使用しよう！

思つた以上に長くなつたうろ覚えでおおざっぱな弓道情報についてはここで終わり。

「さて、そろそろ1時間目の授業が始まるね」

朝のホームルームから時間が経ち今はお昼！

私は今、学園の食堂にいるのであつた。

「本日の昼食はハンバーグ定食、君に決めた！」

昨日のお昼に選ばなかつたチーズが乗つかつててあつつかつジユーシーそうなハンバーアアアグ定食にした。

ボリューミーでおなか一杯になるあつあつハッパーグだけではなくついてくるごはんが大盛り無料という育ち盛り真っ最中の女子高生にはありがたい存在なのだ。

ただ……痩せたいと思つてる子にはきつい存在なのはここだけの話。

私に食レポなんて期待されても困るから今回も食事シーンはカットカットカット!!

私の食レポは多分これからもないだろうね、きっと。

お昼のおいしい時間から時間が経ち今は選択授業が終わつた後つて、これつて昨日と似てる気もするけどスルーで。

お昼から選択授業までは特に何もなく進んだから言うことがないね。

私の選んだ弓道の選択授業は朝のホームルームでの予想通りで、この1年間どんなことをするのか説明や矢や弓懸などを購入するため

の用紙配布で終わった。

少し早く選択授業が終わつたために私はすこし歩き回ることにした。

考えもなく行先を決めずに歩いたせいか気づけば森の中に迷い込んでいた。

一度立ち止まり周りを見るとすこし先に学園が見えるため戻ることは問題ないと分かり、学園が見えるならこのまま歩き進んでも問題ないと判断し再び歩き出す。

「ん? 何か油っぽいにおいがする?」

「いつたいどこから? こんな森の中に何で油、それも燃料っぽい感じのが」

歩き出しすこし経つてからにおいがするのに気づき、においの出所が気になりにおいがする方へ進路を変更する。

進路を変更し少し経つたところ前方の茂みの間から大きな物体が見えてきた。

危険がないか少し気をつけつつ近づいていくと物体の正体がわかつた。

「これはまさか戦車? それもこれは軽戦車っぽい」

「なんでこんなところに……それにしてもボロボロで汚れてるね、このチエコ製軽戦車は」

まさか戦車を見つけるとは、まつたくもって驚きである。

この戦車はきれいに清掃し整備をしたら以前のように動くのかな?

動けばいいのにと、そう思つたところ後方から物音が聞こえてくる。

できるだけ物音立てないように近くの茂みに隠れつつ物音がする方を観察する。

どうやら複数の足音と話し声が聞こえるところから、単独でなく複数人がこちらへ接近してると分かり出会わないように急いでこの場

を離れた。

「……さつきの戦車、もう少し見たかつたな残念」

離れつつもさつきの戦車の方へ振り返りそうつぶやく。

本当にどんな戦車か調べたかつたなど、何度も心に思つたのであつた。

本来の授業終了時間までに学園に戻ることができた私であつたが、森の中を歩き回つてたので服のいたるところに葉っぱや小枝等がくつついていた。

さすがに学園に戻る前にきれいにしたほうがいいと思ひはたいてきれいにする。

きれいになつたかどうか確認するけど問題なさそう。

「蟲もくつついてないしこれなら戻つてもいいね」

学園に戻つてから時間が経ち放課後となつた今、帰る用意をすでに終え教室から出る。

寮に戻る前にもう一度さつき見つけた戦車があつた場所に寄つたが、私が離れた後に移動されたのかもうそこにはなかつた。

もうなかつたことに残念に思いつつも移動されたということは誰か必要なところに行つたんだろうね。

それならそのほうがとつてもいいこと、そう思えた私はきれいに整備され生まれ変わつた戦車を思い浮かべながら寮へと帰つた。

「生まれ変わつた戦車よ、戦車のこれからを私は楽しみにしてるね」

もし戦車道授業で戦車戦闘があるなら私、少し見てみたいね

放課後になりすぐには寮には戻らず選択授業内で見つけた戦車が気になりもう一度見に行つた私。

だけど、あつた場所にはもう無く少し寂しさを感じるのも、あの戦車にはどんな人が乗りどんなふうに動き回るんだろうという寂しさではない楽しみも生まれた。

悲しみと楽しみが混じつてる私、あんまり無いことなのでもう1ヶ所寄り道しようとある場所に向かう。

追加の寄り道、それはある程度近づいただけで分かつてしまふ油と鉄の香り。

そう、何処かというと自動車のことならなんでも任せされで有名な自動車部の拠点ガレージである。

なんでここに来たつて？

それは私と同じクラスメイトであるツチャガ自動車部に所属してるからついでに様子見である！

つい先日に授業で使う物を忘れ教室で困つてた私、その私を見て声かけてくれた人がいた。

「どうしたの？なにがあつたの？」

「……忘れ物、私としたことが」

そう言いつつ暗くなつていく私、それにたいし声かけてくれた彼女はニコニコしながら私の忘れた物を貸してくれた。

その日の放課後に貸してくれた物を返しに行くと、声をかけてくれた時のような笑顔で迎えてくれた。

私はお礼を言いつつふと鞄に入れっぱなしだつた物を思い出す。

思い出した物をとりに戻り、途中で戻つたことに悪く思い始め急いで戻る。

「……これ、お礼。どぞ」

「ええ？別にお礼なんていいのに…って！いいの!?」

渡した物は学園近くのファミレスのドリンクバー無料券4枚、悪そ
うに受け取りつつもとても嬉しそうな雰囲気で包まれるのを見て渡
して正解とひそかに思った。

そのあと彼女と別れるまでの間、少し話した。

彼女が部活にそろそろ行くと言つたので私も寮へ戻るため自分の
席に戻ろうとすると

「そうだ！ツチヤっていうの覚えててねー」

「……いいの？呼んでいいの？」

「いいよ！かもーん!!」

という流れで彼女、ツチヤの名を知った私であつた。

その後の日からはツチヤが暇なそうなときに近づいたり、すれ違つ
た時に少し話すようになつた。

あれ？

前の話数では話している場面無いでしようつて？

……細かいことはいいのさあー

あれ？

今思つたけど、相手の名を知つてちよこちよこ話するつてもしかし
て……友達だつたり？

……友達か聞いてないし、不安だから友達未満にしどこつと。

唐突のツチヤとの出会い振り返り終了。

ツチヤとの出会いを振り返っている間に自動車部の拠点ガレージ
に着いた……つて？

ありや、ここは自動車部が使つてるのでないね。
うつかり間違えて、他の場所に来たっぽい。

にしても、自動車部以外にもガレージ使つてるのは知らなかつた。

「ここつて、どこが使つてるんだろう？」

扉が開いてるから覗いてみると……

「ありやありや？ああ、ここにあつたのねあの戦車は」

「戦車は見つかってもう少し見たいけど、目的の自動車部に行かねば」

「じゃあね戦車よー」

その後、無事に自動車部が使つてガレージに着いたのはいいが既にツチヤ達は帰つており誰もいなかつた。

謎のガレージから寮へ戻つた私はお風呂やごはん等をぱぱつと済ませて近くにある本棚にむかつた。

しばらくガサゴソ本棚漁りをしてたけどある本を見つけた私は、漁りの結果少し荒れた本棚から離れご飯食べていた机へまた戻つた。本棚から持つてきたのを机に置くとおおざつぱに本を開くが、どうも見たかつた内容でなかつたようで本を閉じもう一度本を開くがそれまた違つたようだ。

3度目はさすがにと思ったのか大人しく？目次を開きそこから何ページなのか探すこととした。

私が今読んでる本、それは世界中の戦車道で使われている戦車が網羅される図鑑。

なんで図鑑を探してたかというと私が見つけた戦車について調べたかつたからだ。

いろいろと調べた結果、おそらく38(t)戦車、それもちよつと独自に改造してる感じみたい。

「んーD型やF型とどう違うんだろうこの38(t)戦車？さつぱりわからないねこれ……」

38(t)戦車についてはそれほど詳しくない私は見つけた38(t)戦車と図鑑の38(t)戦車がちよこちよこ違うのに気づきにらめっこしたけどさつぱりにおわつた。

しばらく考え続けたが浮かばないため諦めることにする。

図鑑とのにらめっこを終えた私は図鑑を本棚に片付けると一気に眠気が襲つてきた。

なんとかベットまでたどり着くと同時に力尽くように意識が遠の

く。

「……おやすみんぐす」

「本日も晴天なり。もう恒例化しつつあるねこれ。でも、いいか」

朝のホームルームが終わつたところでふとそうつぶやく。

もう恒例化としたつぶやきをしつつまだ少し眠気が残る私は、机に置いてある教科書で隠しつつ欠伸をする。

昨日の深い眠りから覚めると遅刻ギリギリになりそうな時間であることに気づきとても慌てて学校の用意をした。

昨晩、図鑑探しの前に用意は大半していたため、朝の用意は朝ごはんの時間と身だしなみくらいしかからなかつたのはとても助かつたと昨晩の私を褒めたい。

遅刻しないように猛ダッシュで部屋を出たおかげで遅刻せずに済んだが……

「ひとつ気になることがあるのよね。」

「そう気になることがあるのだ。」

それは猛ダッシュで登校中にふらふらと歩く大洗の制服を着た子と出会つた。

さすがに遅刻ギリギリとはいえ見捨てていくのもと思い肩を貸しつついつしょに登校することになつた。

学園の校門が見え始めたところで肩を貸してた子が、もう大丈夫だから先行くようと言つてきたため先に行くことにした。

風紀員が遅刻の知らせる頃には、ギリギリ校門を突破しており遅刻にはならなかつた。

私はそのまま下駄箱へ向かつたが……肩を貸したあの子は間に合つたのだろうか？

それが私の気になることである、どうか間に合つてますようにと心から願うばかりであつた。

先生が教師が入ってきたため意識を前に戻す。

朝のホームルームが終わってから時間が経ち今は2回目の選択科目授業中である。

今回も昨日に続きほかより早く授業としては終わったためまた周りを歩いてる。

昨日、ガレージで見かけたあの戦車があれからどうなったんだろう？

気になつて再び、あのガレージへ向かうことに。

「うん？ なにやら洗剤っぽい香りがするのなんでだろう？」

ガレージへ近づいてくると昨日には無かつた香りを感じる。

何か洗つてるのだろうかとガレージからはばれない位置を確保し、何してるのかガレージのほうを見る。

「あーなるほど。戦車達を洗つてたのか、それは大変なことね」

ガレージ前にかなり汚れてる戦車が5両並んでおり各戦車に数人ごと集まつて洗つてるのが見える。

おそらくだけど数人ごとに洗つてるが洗つた戦車に洗つた人たちが乗る感じかな？

昨日、私が見つけた38(t)戦車も3人？ いや1人がブラシをもつて洗い、別の1人が洗つてる子に指示を出してるようだ。

最後の1人は、何してるんだろう？

2人の様子やほかの戦車の様子を見てるようだけど……ブラシの子を手伝わなくていいのかな、1人だと大変だと思うけど。

まあ、問題ないからそうしてるのだと思うことにし5両の洗車の様子をじっと見る。

しばらく見てたけどこれ以上はさすがにと思い教室に戻ることにし、そつと気づかれないように離れる。

ばれてないと思つてるけど、なんだか最後ちらつとこちらに視線を向けた子がいた気がする。

38(t) 戦車やほかの戦車の様子を見つつ干し芋を食べていた生徒会長さんにまさかね？

「こう言つたらあの子たちに怒られしがたけど、あえて言おう。」

「もう少し、あの子たちの水着や濡れた体操服姿を見たかつたと」
そう、濡れるためなのか洗つてる子達は濡れていい姿であつた。
水着はまだ夏場なら見れるけど濡れてる体操服姿はつと、さすがに
ここまでにしておく
私の何かのために!!

そうそう、戦車道を選んでない子でも事前に申請してたら見学してもいいんだって

「ふう……さつきは良きもの見れたね」
覗き見をし、ちょっとした興奮することになつた戦車道のガレージ。

それから場所は変わり、今は自分の教室にてのんびりと席に座つてゐる。

先程までの光景を思い出し顔がにやけそうになるが、ふと疑問が浮かぶ。

それは彼女達はいつたいどこで自分達の汚れを落とすのかと。

昨日見つけたと思えし戦車達は、誰からも見てもかなり汚れていた。

野晒しに置かれていただろ、戦車のあちこちが限界に來てるのは想像がつく。

そのため戦車道に使うためには一度、おもいつきし整備する必要がある。

では整備しようしても、汚れを落とさないといけない。

そのために頑張つて戦車の洗車をしていた彼女達は当然、全身余すこと無く洗剤や泡、水まみれであつた。

まあ、38(t)戦車についてのんびりと干し芋食べてたあの人はそれほど汚れて無いと思うけどね。

……あつ、今思い出したけど38(t)戦車のそばにいた人達つてうちの生徒会か。

それなら生徒会は38(t)戦車に乗るつぽい？

たぶん戦車道の隊長は会長さんがするから、38(t)戦車が隊長車両になるのか。

38(t)戦車も悪くはないと思うけど、並んでいたなかにあつたIV号戦車がいいと思うけど……

おつと話がそれたね。

今日は洗車、ならさつき着ていたのは水着や体操服といった汚れて
もいい服。

それなら着替えの服を用意してはるはず。
服は更衣室で着替えたらいけど、流石に全身泡まみれの状態を放
置するはどうかと思う。

戦車乗りとはいえ、うら若き乙女である。

そこらへんはどうか気にして欲しいものさ。

そう言えば、ツチヤがシャワー室みたいのが自動車部のガレージ
について言つてたね。

そこの借りるのか、それとも水泳部かね？

どつちにせよ、もう春になつてしまらく経つけど風邪には気をつけ
て欲しいものよ。

そうだ、自動車部のシャワー室つてどんなのだろう?
気になるからあとでツチヤに聞こつと。

|

放課後になり、これからどうするか考える私。

昼休みにツチヤが確か、今日の部活はとても忙しいとか言つてたの
を思い出す。

学園に今夜は泊まる申請を出してるし……何か購買や自販機で差
し入れでも買うか。

差し入れには何がいいのか考えてると前から私の名を呼ぶ声が。
「ん? どうかしたのツチヤ。今日、ドリンク券あげるつて言つたけ
?」

考えすぎてたのか視線が机に落ちていた。

顔をあげるとツチヤと同じクラスのはずの女の子が立つていた。
どうやらツチヤが声をかけてきて、何かあつたつけていだすが何
も浮かばなかつた。

そう言えば鞄に確かにドリンク券あつたと思いつく、それかなつと。
ちよつと待つてね、ツチヤに告げ鞄から探そうとする。

すると、

「違うんだよー別の事だよ。でもドリンク券は貰うねー
つと返ってきた。

「なら、どうかしたの？ツチヤはこれから部活でしょーに。それも
泊まるんでしょう？差し入れをあとで持っていくけど、何がいい？」
「んーなら、珈琲かな？あと、ラーメンに焼きそばが欲しい！たくさん
ね!!」

そう言えばラーメンつてツチヤが好きなものだつけ？
なら焼きそばは誰だろう。

自動車部の内に好きな人にいたんだ、覚えとこ。

眠気対策に珈琲はわかるけど麺類に合うんかな……一応おにぎり
とかも追加つと。

「珈琲にラーメン、焼きそばね？それだけじゃなんだし他にも持つ
ていくよ」

「えー！それだけあれば十分、他はいいよーありがとう紫苑」

「なら、またあとでねツチヤ」

そう、ツチヤ達と別れる……はずが、それを止めるかのようになが。
「ちょ、ちょっと待ってください！ツチヤ殿！用件がまだです。
えつと……」

「ああ、ツチヤと同じでいいよ呼び方、紫苑でいいから。貴女は？」
そのまま別れそうになつたツチヤに焦つた様子の秋山優花里と名
乗る子。

同じクラスの子で間違いない、だつて毎朝の出欠確認で最初に聞く
し。

くせ毛にシフォンショートボブっぽい髪形をした、元気いっぱいそ
うな子ね。

思いだしたけど、さつき戦車の洗車メンバーにいたわね。
どの戦車に乗るのか気になる。

まあ、そんなことは今は置いといて用件なんだろう？

ツチヤでは少し不安になつたのか、秋山さんが用件を話してくれ

た。

簡単にまとめると、

戦車の洗車が終わり自動車部に引き渡せたので後片付け等をした。

そこに生徒会長から着替え終わつたら生徒会室に来るようになると。生徒会室に行くとツチヤもいた。

会長から同じクラスの紫苑を戦車道に誘えないとのこと。

そのため同じクラスであるふたりに任され今に至る。

用件はわかつたところで疑問が。

なんで私が戦車道に誘われるのか、誰にも戦車道について話したことはないのに。

それについて、秋山さんに聞いてみると。

「どうやら、わたし達が洗車してるのを見てる生徒に会長が気づいたようです」

「それで誰なのか気になり調べたら、紫苑殿と思ひだしたと」

あーそれを聞いて理解した。

最後にちらつとこちらに視線を向けたのは、会長さんだつたのか。干し芋を食べながらだつたから、戦車以外に気にしてないと思つたのに。

感がいいのか、ただ私が見つかりやすかつただけなのか……

転校手続きや挨拶とかで何度も会長さんには会つてるから、覚えていてもおかしくはないけど。

……まさか、生徒全員を覚えてたりするのかな?

転校生だからすぐに思い出せたと思つとこ。

「生徒会、かなり戦車道を重視をしてる。だから、見に来ていた私が

興味あると思ったのね」

「あと、ツチヤと秋山さんを選んだのは悪くはないと思うよ」

生徒会長さんつて策士だつたりするのかな?

友達とクラスメイトから説得されたら、悪くとも見学くらいと思つたんだろうなー

興味があつて戦車道を選んだり、興味が無くとも見学ならでもいい

んだろうね。

見学から興味もつてくれる流れもあるし。

今回手応えなく何度も何度か試し、それでもダメなら諦める感じかな
?

まあ、特に選ぶ気がないから断つておこ。
目の前で入つてくれるといいな、そう願いし不安そうな秋山さんに
は悪いけど。

「せつかく誘つてくれたけど、ごめんねツチヤに秋山さん。戦車道
のみなさんのこれからが良きことを願つてるから」

—あとで差し入れと共にドリンク券持つていくね—

そう、ツチヤに伝え鞄持ち歩きだす。

すると、秋山さんが

「あ、あのー紫苑殿は明日の朝、予定はありますか!?

「明日の?……何時頃?」

「9時頃からお昼くらいまで。その時間帯は予定は空いてますか
?」

「9時からねえ……」

明日の9時から昼までね。

何か私はあつたかなー?

なかつたと思うけど、何かあるのかね。

明日と言えば学校休みの土曜日、学校関係の行事は記憶のかぎり無
かつたはず。

行事でないなら、部活?

でも私は特に入つてないし、助つ人でもない。
なら……まさか。

「秋山さん。もしかして、明日戦車道でなにかするの?」

「はい!明日の午前中、戦車道の特別講師として自衛隊から教官が
来てくださるので。何するかは、まだ生徒会長殿でも分かつてない
ようですが……」

「自衛隊から教官が……?よくもまあ、うちの生徒会はそんなとこ
ろから呼べたものね」

「それに、教官ねえ……まさか、あの人が来るのかな？それなら、会いたいけど――

つと、小声で呟いた。

呟きに反応したのか秋山さんがどうかしたのか聞いてくる。
まさか聞こえていたのかと思いつつ、なんでもないよと。

まあ、普通の授業なら見に行く気もしなかった。

だけど、教官が誰か気になるしどんなことをするのか見てみたいから。

「私、関係ないけどいいの見に行つても？」

「ええ！それは問題と思いますよ。会長殿も、もし来たいって言つたら来てもらつてと」

「なら、秋山さん達から私が見に行くこと伝えてもらえない？会長さんには悪いけど」

「そう言うことならわたしから伝えておきます。紫苑殿がどんな感じだつたのか、帰る前に教えてと頼まれてましたので」

「なら、よかつた。じやあお願ひするね。ツチヤはまたあと、秋山さんは明日ね」

ふたりの挨拶の声を背に、教室から出る。

にしても、私が戦車道にね。

今まで戦車を見つけたり、戦車洗車をちらつと見てたけど見学にながるとは。

まあ、いいや。

明日は特に予定が無く、家でごろごろするだけだつたし。

そんなよりも見に行く方が楽しそう、ふたり……いや、3人か。
彼女達には少し感謝を思いつつ、寮へと戻つていく。

「明日、良き天候になりますように」

戦車道授業に講師と言う名の教官が来るんだね。

……嫌な予感、いきなり模擬戦しそう

「うーん、予定通りに起きれてよかつた」

布団をたたみ、カーテンを開ける。

今日もいい天気、昨日願つといてよかつた。

歯磨きや昨晩に用意済み鞄の確認を終え、布団のそばに置いた服に着替える。

目覚まし時計が2度目のアラームが響かすなか、朝ごはんの用意を。

「一度目で起きないときの保険だつたけど、止めるのめんどくさいな……」

と言ふことで、勝手に止まるまで放置。

本日の朝ごはん、ご飯にお味噌汁と塩鮭焼き。

シンプルな和食を美味しく食べたのち、流しに持つていき水につけておく。

そうそう、昨晩に秋山さんからメールがあつた。

集合時間等を後ほど連絡したいと、昨日教室で別れるときにアドレス交換していた。

「確か、8時30分までに教室にいたらしいとか。さて、今の時間は」

まだ、7時の半ば。

流石にここから2度寝は死亡フラグ、とはいへ部屋ですることも特にない。

土曜の朝早い時間、いつもの番組を見るのもいいけどやめておこう。

部活に入つてないから、基本的に土曜は学校に行かない私。

なので、休みの日は家でごろごろかゲームかテレビで過ごすことが多い。

その結果、予定がない限り休みの日は起きるのはいつもより遅い。

まあ、今日はお誘いあつたから普段通りに起きたけど。

「さて、少し早いけどもう出るか」

学園に着いたら自動車部のガレージでも寄ろつと。

お泊りで疲れてるだろうし、何かまた持つていこ。

途中のコンビニで、珈琲やおにぎりを買うの忘れないようになんにせねば。

鞄を持ち電気の消し忘れ等が無いか確認し、靴を履く。

そうだ、出る前に。

「行つてきます」

|
ありがとうございますー

コンビニ店員のちょっと眠そうな声と共に、コンビニから出る。
部屋を出る前に決めてた通り、珈琲とおにぎりを買った。

ある程度余裕を持つて買ったから、自動車部も喜んでくれるかな?
あと、誘ってくれた生徒会長さんやツチヤに秋山さんにあげるお菓子もついでに。

これはあとで会つたときにでも渡すか。

コンビニから学園まではカットカットカット!

だつて特に何も無かつたし、問題ないよね。

学園校門には8時くらいに着き、まだまだ時間に余裕があつた。

これなら自動車部に寄つても、問題なさそう。

そう思えたとき、校門前に生徒がいるのに気付く。

「おはよう。貴女も戦車道関係者? 時間に余裕もつて行動すること
は、風紀にとつてもいいことよ」

「おはよう。休みの今日もお疲れ様ね、風紀委員長さん。関係者で
無く、今日は誘われたの」

「そう、それなら今日は楽しみなさい。迷惑かけないように気をつ
けて」

校門に立つていた風紀委員長、みどり子さんと別れ自動車部ガレー
ジに向かう。

そそう、なんで休みの今日にみどり子さんがいたと言うと簡単。

今日は、自衛隊から戦車道の特別講師が来るから人手がいる。

それで、風紀委員と生徒会メンバーが裏方さんとして助つ人に呼ばれたと。

昨日の秋山さんがくれたメールに、ちらつとそうあった。

そう言えば大洗の風紀委員つてある意味、不思議な組織なんだよね。

みんなの髪型がおかっぱで、身長もだいたいと言うか完璧と言うか同じ。

髪型に関しては大洗女子学園風紀委員の伝統で、身長は145cmと決まつてるとか。

100を超える人数が所属する風紀委員。

よくそんなにいたものね……

「今」の時間は、8時25分。うん、遅れずに教室に来れた」

いつの間に教室にいるだつて？自動車部はどうしたかって？いやー自動車部には行つたのよ。

ガレージに着いて声かけても無反応、それで中を覗いたら御疲れで自動車部の皆は寝ていた。

流石に起こすのは悪いと思い。

お疲れ様です。近く寄つたので差し入れです、紫苑よりとメモ書きと共に買つたのを置いてきた。

その後、時間が微妙に気づき慌てて教室に移動し今となる。

もう少しで、迎い兼今日の案内してくれる人が来るとか。

秋山さんのメールでは誰なのか書いてなかつたけど、誰が来てくれるんだろう？

少し楽しみにしつつ、鞄に入れてたペットボトルの珈琲を飲む。

いつの間に買つたつて？

教室まで移動中になつた自販機で買つたのよ。

あとでも飲めるように何本も買つたのは内緒。

教室の扉に近付く足音に気付き、珈琲を急いで飲みきる。

開くときには、何とか鞄の中に空のペットボトルを片付けることができた。

入ってきた人が誰か気づき、先に声をかける。

「おはよう、秋山さん。今日はよろしくね」

「紫苑殿、おはようございます。こちらこそ、今日はよろしくお願ひします」

「秋山さん、このあとは戦車道使用のガレージに行くの？それとも、生徒会長に会いに行くの？」

「それが、今は忙しいからガレージでいいと生徒会長殿から。なので、このままガレージに行きます」

「そう、ならガレージで会つたら会長さんに挨拶するか。それと、忙しいのに案内してくれてありがとう、秋山さん」

「いえいえ！生徒会長殿に頼まれたとはいえ、私も誘つたのですから気にしないでください」

では、そろそろ行きましょうか

つと、秋山さんが歩み出す。

その後をついていく私、移動中は秋山さんがいろいろ話してくれた。

戦車や戦車道に関しての話が休むことが無かつた。

それにもしても、秋山さんつて戦車好きなのね。

話し聞いてるだけでも戦車についてかなり詳しいし、何より戦車道に対する情熱がすごい。

これだと、戦車道の試合のために相手校まで調査に行きそうね。無いと思うけど、その時があればお土産を頼もつと。

ちなみに、戦車道のルールでは試合前に相手校まで行き調査、俗に言うスペイ活動は認められている。

流石に、戦車破壊や部品隠し等は禁止されてるけど。

でも、相手校に直接行つて調べる学校は、今は少ないと思う。

できる人を育てる必要があるし、時間もかかり大変。

とはいって、戦車道の強豪校はどこも徹底的に調べる。

情報が沢山あるほど、試合を有利にしやすくなるからね。
よそから情報を隠す、よその情報を得ることは情報戦でいいのかな
?

強豪校である聖グロはそう言つたことに力を入れてる。

専門のクラスが頑張つてるとか?

大洗も対戦することがあつたら、調べられるんだろうなーこわこ
わ。

「どうかしましたか紫苑殿? 何かありました?」

聖グロの魔の手に内心怯えてると、秋山さんがこちらに振り向き立
ち止まつてた。

どうやら思い耽ていつの間にか立ち止まつてたみたい。
それに気付いた秋山さんが、声をかけたくれたのね。

「ちよつと考えてたの。問題ないから、行きましょう」「
「考え方でしたか。では、行きましょうか」

ええ。

そう答え、再びついていく。

そろそろ、戦車道が使つてるガレージに着きそうね。

さつきの聞いた話だと、まだ教官は来てないからそこで少し待つと
か。

何やらイケメンの教官が来るつて、秋山さん曰く生徒会長さんが
言つてたらしいけど……

きっと違うんだろう——なー

男性も近年、戦車道に関わること増えた。

まあ、戦車道にかかる人が少ないけど、男性が戦車に乗るのは昔
からある。

そのため、経験豊富の男性が教官に来るのはおかしくない。

とはいえ、復活させたばかりで不慣れ子ばかりの大洗には合わない
かな?

それに大洗は女子高、男性に慣れてない子もいるだろうし。

だから、今回は経験が多い女性が選ばれるかな。

私の予想だと……そうね、あの人かな?

まあ、当たつたらアイス買つて帰るかー

秋山さんの進む先に、ガレージが見えてきた。

ガレージの前には、先日とは違ひとても綺麗でしつかり整備された戦車達が並んでいた。

|

「ん？ 生徒会長さん達、生徒会メンバーもまだなんだ
ガレージに着いたのはいいけど、なにしよう？」

秋山さんは、自分が乗る戦車を見に行きたそうだったから見送ることに。

なので今はひとり、そうひとりなのよ。

ここにいるのは皆、戦車道を履修してゐる。

それに昨日の戦車洗車を見て感じたけど、もうみんなが乗る戦車がもう決まってるんだろう。

各戦車前に集まってるのを見つつ、端っこに立つ私であつた。

「ふーん、秋山さんはIV号戦車なのね。あと、追加装甲つけてない
んだ」

ボツチな私は秋山さんが何乗るのか気になり、並んでいる戦車を見る。

すると複数の人がIV号戦車の前にいて、その中に秋山さんが混じつてた。

「あれ？」

ふと疑問を。

確かあの戦車は5人乗るのが基本だけど、秋山さん含め3人しかいない。

流石に3人はきついと思うから、誰かひとり遅れてるのかな？
それなら4人、装填手が砲手を兼任にしそう。

戦車に詳しい秋山さんが戦車長するのに、今度のお昼の1品をペツト！

遅れてる子が戦車経験者とかなら分からぬけど、大洗にまさか

ねー

ちなみに I V 号戦車といえば、車体および砲塔左右側面部に追加装甲しているイメージの私。

対戦車ライフル弾や H E A T 弾対策で付けられ、シユルツエンやトーマ・シールドと呼ばれる。

I V 号戦車には種類があり、種類によつて付けてる物が違う。

「後々、つけるのかな？まあ、今すぐ要る物でないかあれば」

のんびり I V 号戦車を見てると、エンジン音を響かせガレージに向かつてつつこんでくる物が。

ガレージ前にいる生徒や戦車にぶつからないように、38(t) 戰車が急ターンドリフトを決め停車した。

そう言えばこの戦車、並んでなかつたのに今気付く。

それまで賑やかだつたガレージ前が、驚きにより静かになつた。

それにしても……

「よくもまあ、無茶な走行するものね……それと、事故らなかつたことに驚きよ」

ちらつと秋山さんを見ると、見事にショックを受けてる。

戦車であんなことするなんて、誰でも思わないし。

足回りが問題ないといいんだけど……何かあつたら自動車部がんば！

キュー ポラから半身出す会長さんが、どつかの軍曹っぽいこと言つてるなか心配する私であつた。

実戦は訓練より良いと言うけど……模擬戦を最初からするのはどうかと思うよ教官さん？

「ほーⅠⅠⅠ突が開戦の号砲鳴らしたか。当たつてないけど奇襲になり、皆慌てそう」

ⅠⅠⅠ号突撃砲が先に見つけたのか砲弾を放つ。

そして、この1射が今回の模擬戦第1号となつた。

ⅠⅤ号戦車としては、見えない敵から突如の砲撃が来て驚いてるかな。

彼女なら冷静でしようが、他の子達はそうでない。

他の子を落ち着かせつつ、現状確認や回避等の指示を休む暇なくする彼女を想像できる。

「と思つてるそばから、ハツチから外確認してるね」

ふむふむ、砲塔側面から秋山さんにあの彼女が出てくる。

となると秋山さんが砲手で彼女が装填手か。

にしても、撃たれたのを知るとすぐさま外を確認するとは流石ね。

彼女だけでなく、秋山さんも頭を出すとは。

てつきり彼女だけかと思つてたんだけどねー

「さてさて、ⅠⅤ号戦車はこれからどう動くのか楽しみね」

模擬戦はまだ始まつたばかり、さてさてどうなるのやら？

休む暇なく回避し続けるⅠⅤ号戦車を見つつ、なんで模擬戦が始まってるのかを思い出す。

|

急ドリフトを決めた38(t)戦車から降りてきた生徒会長達。

生徒会広報さん（名前なんだつけ……思い出せぬ）が、戦車前に各チーム一列ずつに整列するように指示を出す。

整列が終わつてもまだ教官が来ず、次第にどんな人が来るのか話すのが聞こえ始める。

整列するなかのひとりが何かに気付いたのか、ふと見上げる。

何も無い晴れた青空が映るなか、その生徒はふと隅っこにある小さい黒い点に気付く。

それから間もなく点が大きくなるにつれ音が聞こえ始め、他の生徒も気付いた時には遅かった。

なんと、生徒達の頭上を大型の輸送機が通過すると何かを投下した。

投下されたのがパラシュートによつて減速しつつ着地する。

投下から着地までの間、私含めてみんな茫然したね……

なお、投下されたのは自衛隊最新戦車の10式戦車でした。

……まさかそれに乗つてくるのかと思うと共に登場方法も、もう少し穏やかに出来なかつたのかと呆れたのは内緒。

まあ、あの教官に穏やかなんて求めても無駄なのは知つてゐるけど

……

そうそう予想通りに教官として来たのはあの人でした。

名は蝶野亜美、陸上自衛隊の1等陸尉さんで今も昔も戦車道にて様々な活躍をしてる。

高校時代から名は知られており、全国大会で単騎で敵戦車十五輛抜きや十二時間に渡る激闘の一騎打ちとか、いろいろなことをしてくる人。

今は自衛隊所属しつつ、実業団リーグで活躍してるとか。

そんな人だからだろうか。

10式から降りた彼女は、生徒達に挨拶した流れのまま模擬戦をすると言つた。

初心者が多いなかいきなりそれはと言う意見が出たが、対して彼女

はとても分かりやすい訳を話す。

聞いて訳すると、戦車なんて実際に動かしたら分かるからしてほうがいい。

トテモワカリヤスイデスネー

いろいろと、ツツコミたいけど我慢した私であつた……

そうそう、彼女は教官だし教官呼びでいいか。

教官のもと整列し直しみなは始まりの礼し、各戦車に乗つた。

そこから戦車長等の役割を決めるため、時間をとる。

全チームの役割決まつたところで、教官から発進の号令が。

「パンツァー・フォー！」

決して、決して、パンツのあほーでないから注意よ。

わかつた？いいね？

|

少しの間、模擬戦が始まるまでを思い出してた私。
今の一V号戦車がどんな状況か気になり意識を戻す。

そうそう、模擬戦は各車両がそれぞれのスタート地点に着いて間もなく始まつた。

生徒が戦車に慣れるように教官のひと言から始まつた、殲滅戦形式の模擬戦。

殲滅戦形式、つまり各車両が敵。

他のに会つたら即ぶっぱしろつて……彼女と秋山さん以外は戦車に触れて短いと言うのにあの教官は。

もう少しやり方は無かつたのかね？

そんなことを少し離れた場所から見てる私は思つた。

ちなみに今いるのは学園艦橋、私以外にもここには教官や複数の学園関係者がいる。

撃破判定とかは普通は飛行船や飛行機で確認するけど、今回は艦橋から確認だつてさ。

まあ、艦橋は少し離れてるけどかなり高いから白旗も見やすい。
確認できるから艦橋でもよかつたんだろうね。

それに、ここは空調もしつかりしていいところ。

「にしても、なかなか当たらないものね。見てるこつちがなんか落ち着かない」

操縦手がいいのか戦車長の指示がいいのか分からぬけど、一V号戦車は避けてる。

多分だけど、そうじやなさそう。

他の車両の子達は戦車に不慣れ。

自分も止まり相手も止まつてゐるならまだしも、両車動いてる。
それで当たる方がすごい。

後、多分だけど。

指示がいいのが操縦手か戦車長で無くて、装填手だと思う。
そう、多分だけどね。

I V号戦車は避ける為にも、動き続ける。

そんな I V号戦車の中は何がいて、どこから砲弾来るとかで
賑やかそう。

後から狙われ追い立てられるように動く I V号戦車。

私は遠くから見てるから分かるけど、その先からも残りの3両も近づいてくる。

「挟み撃ち狙いか——前後から狙われたらきついね」

前から近づいてくる3両は、迷いが無く I V号戦車に向かう。
普通なら敵がいないか周辺を気にするけど、それが見られない。
なら、始まる前に話し合いによる挟み撃ちか包囲でしようね。

「ふーん、考えたものね。確かにこれは悪くないかな？」

手を組んで、この中で唯一の経験者が乗つてゐる I V号戦車を倒す。

誰が考えたのか知らないけど、いいと思う。

さつきちらつと見えたけど、彼女は戦車長でなかつた。

とはいへ、何かあるたびに指示を出すと思うから安心できない。
それに何かのきっかけで役割が変わるかもね。

試合中の搭乗員の乗り替えは、ルールで認められてるし。

ふと I V号戦車が進む先が知りたく、さつき見た地図を思い出す。

「ふむ、この先は吊り橋か。挟み撃ちや包囲にもつてこいの場所ね」
吊り橋で挟み撃ちされると、どうしようもないからな——

左右は当然無理、ならば前か後ろとしても敵がいる。

それも前はともかく後が3両となると、普通だとつみだね。

これがまだ前後1両ずつだつたら、どつちか先に殺つただけでなんとかなりそうけど。

殺られたの見て残つた方に隙がでるだろうし、そこを狙えればいいん
だけど……

さてさて、どうなるのかな?

「ん?……あれ、減速したの?」

前から突撃してきた八九式中戦車を避けるようにすれ違うIV号
戦車。

IV号戦車を後ろから追つていたIII号突撃砲は、八九式中戦車
とぶつかりそうになる。

両車はぎりぎり衝突を回避できたが、その間にIV号戦車は距離を
離す。

何とか2両を撒いたIV号戦車、そろそろ吊り橋が見えてくるところで減速する。

いやー驚いた。

減速してるのはいえ、走行中の戦車に飛び乗るとはなかなかやるわ
ね。

とはいえ……

「ふむ、なんであそこに人が? それも模擬戦の前には見かけなかつ
たし」

模擬戦が始まる前、ここから教官が見てたし現地を風紀員達が見て
回つてたはずだけど。

安全確認から今まで誰も気づかれずに忍びこむとは。
まさか、忍者なのかな彼女?

大洗つて忍道あるから、否定できないよね……

どうやらそのまま車内に入つたから参加するっぽい。

外で放置なんて危険だしそれがいいか……って、無線で教官に報告
したらしいような?

……まあ、細かいことはいいか、ちょっと離れてる教官は何も言わ
ないし。

「それに、これで5人揃つたのねIV号戦車は。役割は装填手かな
?」

飛び入りの子がこのまま参加するなら、戦車長兼通信手を解消するでしょう。

戦車長、砲手、装填手、通信手、操縦手で兼任するなら、2通りかな？

戦車長兼通信手か砲手兼装填手で、他だとやりにくい。

まあ、これ以外も見るからこれだけとは限らないけど。

今回は隊を組まない殲滅戦、つまり通信手はいてもすることが無い。

なら、戦車道に關係ない子でも問題ない通信手がいい。

それに形だけとはいえ兼任も無くなる、よきことよきこと。

「へー煙幕で姿を隠し、その間に橋の確認。度胸があるのか怖くないのかどつちかな？」

橋の手前で減速したからか、III-I号突撃砲と八九式中戦車との距離が縮まった。

そのため再びIV号戦車は、後方より砲撃の嵐に晒される。
そこでIV号戦車は、煙幕を展開することにより一時的に身を隠す。

後方の2両は煙幕越しに撃つが、狙いが定まっておらずIV号戦車には当たる気配がない。

その間にその先にある橋の状態確認ねー

橋渡りました、ですが橋が脆くて崩れました。

ではいけないから、確認つて大事ね。

でも、確認するためには外に出なきやダメ。

それも、後ろから休むことのない砲撃があるなかで生身で確認する。

こんな状況に慣れてないと、決してできること。

被弾しても基本的に安全と言われる戦車道。

だけど、生身ではどう？

安全って言われるのは戦車内にいるとき、生身ではそこまでは言われてない。

それも当然でしょうね。

鉄で覆われてる戦車内と、せいぜい服やヘルメットくらいしかない生身では全く違う。

それに、地面に直弾することによつてさまざまな破片や石等が勢いよく周りに飛ぶ。

これに当たるだけでも、怪我は避けられないでしょうね。

怪我するかもしれない恐怖に襲われつつ、確認しに行く。

元強豪校のいたからとはいえ、行ける彼女に心からの称賛を。

橋の確認が終わつたのか、煙幕に隠れているIV号戦車に進むよう

に合図をだす彼女。

それを受け慎重に進み始める。

橋のなかばを通過した所でいつの間にか少しずれてたのか、右履帯先端が橋桁からである。

その揺れと共に、何か固いものが激しくぶつかる音と衝撃がIV号戦車を襲う。

III号突撃砲の砲撃が当たつたのだ。

煙幕が晴れてきたところを、突撃してきたIII号突撃砲が狙いも付けずに発砲。

それが運が悪く、IV号戦車の左履帯後方上部に当たつたのだ。被弾間もなくハッチから身を出す秋山さん。

外にいる彼女に向かつて何か叫んでるけど、離れているこちらでは何かはわからない。

だけど、なんとなく想像は出来る。

「多分だけど……誰かが、負傷か気絶をしたんでしょうね。続けての衝撃だつたしありえる」

「にしても、撃つたIII突もすごい。橋の上の目標を撃つとはね」「戦闘中とは言え驚いた。もしが浮んだら、撃てないでしようし」「戦車内は安全つて言われるけど、安全とは限らないからなー」「もし橋とかにもし当たつてたら、ね」

さてさて、被弾からIV号戦車の動きが無い。

と言ふことは、操縦者が氣絶かな？

怪我だつたらもう何かしら対応してゐるでしようし。

怪我でないなら安心、氣絶なら時間経てば回復するでしよう。

と言つても……操縦手となるともう終わつたかな？

操縦となると慣れがいるから、そう簡単に代わるものでない。

それが出来そうな彼女は、まだ外にいて離れてる。

戻る間に、後ろのIII号突撃砲か八九式中戦車によつて擊破と。

ああ……勇者よここまでか、つと呟こうとする。

でも、することは無かつた。

「ほう、動くか。だれか、運転の仕方知つてたのね」

それか、もしかしたらその場で覚えたのか？

再び動き出したIV号戦車、何とか出ていた右履帶先端が橋の上に戻る。

まだ完全に煙幕が切れてないため、後方2両からの砲撃は離れた場所に飛んでいく。

渡り始めたときよりかは、少し速めに進むIV号戦車。

そして、撃破されること無く渡りきつたところで一度停止する。

彼女が乗りこむと同時に、後方の八九式中戦車が発砲。

砲塔ぎりぎりを掠めていく、この発砲でギリギリ残つてた煙幕が晴れることに。

これで3両はお互いの姿を確認した。

すぐさまIV号戦車が発砲、反応できなかつたIII号突撃砲に命中撃破。

そのすきに八九式中戦車が発砲するが、すでにIV号戦車が動いており当たることはなかつた。

IV号戦車が停止しすぐさま反撃、八九式中戦車を撃破。

休む暇もなく急速に接近してきた、38(t)戦車との正面からの同時発砲。

発砲による煙がお互に晴れ、お互いの様子が分かる。

38(t)戦車から白旗が立ち、IV号戦車は立つてない。

「残りは1両。それにしても一気に動いたものね」

橋から3両連続撃破までじつと見ていた。

橋で終わるかと思いしや状況をひっくり返すとは……流石というかすごい。

それに彼女以外はみな戦車に触れて日が浅い。
ぎりぎり秋山さんはまだ詳しいからとはいえ、そんなメンバーでこんなことができるのね。

もし、このまま経験を積んでいつたらどうなるのかな?

今でこれだと、かなりのチームになるでしょう。

ほかのチームがどこまでいくかは、分からぬけどもしかしたら。「もし大会で強豪校ぶつかつても、いいところまで戦えるんじやないかな?」

そんな、復活したばかりの戦車道チームでは思えないことをつぶやく。

でも、そんなことができたらどんなに面白いことになるかな?

残りのチームリタイアを知り、教官が模擬戦の終わりをしめす勝者のチームを告げる。

教官と共に学園に戻るなか、これからの大洗戦車道が楽しみな私であつた。

急な模擬戦お疲れ様みんな。そう言えば、聞いた話だけど……戦車が目立つようなことはあんまりしないほうがいいよ

「本日も晴天なり、もう寝てもいいよね？」

今日もいい天気、お日様のおかげか歩いてても眠くなつてくる。にしても、春になつてあんまり雨が降らない気がする。

学校や外出にはいいんだけど、野菜に影響あつて欲しくない。野菜が高くなると、ちょっと困るんだよねー

「寮暮らしの身。少しでも削れるところはそうしたい……」

なんとか軍資金が増えないものかと、登校中に思う。

うんうんと唸り考えると、前方に見知った人が。

「おはよう、秋山さん。今日もいい天気ね」

「これは紫苑殿、おはようございます。そう言えば……最近あまり雨降つませんね」

私の方に振り返り挨拶を返してくれた秋山さん。

秋山さんは、この前の土曜日でも会つた。

その日は戦車道の特別講習と模擬戦があり、生徒会長さんからのご招待？で見に行つたの。

ちなみに、突如に始まつた模擬戦の勝者は……秋山さんがいたチームでした。

模擬戦とはいえ、初の勝利にとてもうれしいそだつた。

そうそう、その次の日は戦車道の活動は休みとなつた。

流石に、何するか分からぬ生徒会長さんは言え初めての模擬戦の疲れを考えてかそうしたつて。

その休みの日に、秋山さんは同じ戦車メンバーで買い物に行つたとか。

流石に若い乙女にとつて戦車の椅子はきついようで、クッションやちよつとした小物が欲しかつたと。

買い物中に戦車内を土禁にしたいとか、ちよつとした声が出たらし

いけど……

まあ、土禁は無いとしても小物については置いていてもおかしくはない。

例えば、戦車道の名門校である聖グロ……そうそう、聖グロつて聖グロリアーナ女学院で長いから聖グロつと。

聖グロのすべての戦車には紅茶セットがある。

ある理由は簡単、いつでもどこでもティータイムが出来るように。

そんな聖グロにはこんな言葉がある。

それは……

戦車がどんな走行しても皆、一滴の紅茶もこぼさない
である。

でも、こう言つちや悪い気がするけど聖グロの方々の運転つて荒い
と思う。

何度か聖グロの試合を見たことがあるけど……

具体的なのは出さないけど、パツと何人かそんな気がするのよね。
さつきの言葉は、紅茶をこぼさないくらいに綺麗な運転ができるの
か、どんな運転しても紅茶をこぼさないよう立ち回ることができるので
迷う私だった。

まあ、聖グロのことは置いといて。

戦闘に使われる戦車、その内装は殺風景とも言える。

多少なら女の子向けにしたいのは分かる、どんなの買つたのかな?
流石に外装に関しては、索敵されやすくなるからと秋山さんが必死
に止めたとか。

それを聞いて、お疲れ様ねと秋山さんに送った。

このとき買つた物は、次の戦車道授業が始まる前に戦車に置くこと
にしたと聞いた。

そうそう、なんで私が秋山さん達の買い物を知つてるかと言うと。
昨晩に秋山さんから、電話がありその時に聞いたのだ。

少し長電話になつたけど、その日あつたことを楽しく嬉しそうに話
す秋山さんだつたから良き時間となつた。

までよ、長電話できるつて友達と言えるんではないか?

もう、これは秋山さんとは友達でいいな！

ツチヤに続いて大洗にての友達2人目だ!!

これは、今後もっと増やせそうな気がしてきたな。わくわく。

ちなみに、昨日の私はどうだったかと言うと……特に無いかな？
ツチヤ達、自動車部に恒例となりつつある差し入れと様子見に行つたくらいね。

模擬戦で少なくない損傷が戦車にはあるから、何度も泊まり掛けで修理してた。

直すだけではなく、模擬戦の様子を聞いて違和感があつたところを確認しつつ調整もしたつと。

自動車部つてどこかのプロ部隊なのかと、時たま思つてしまふよ私は。

修理してるの見て、ふと感じたことがあるからツチヤ達に聞いたことがあつたの。

それは、修理する為の部品とかつてどこから調達してるのか。

戦車道に関する物の出費は基本的、戦車道連盟や文科省の学園艦教育局に申請あればある程度の補助とかしてくれることから資金面はいい、だけど物はどうするのか。

一応、ここ大洗学園艦には戦車道の専門店が1店舗ある。

あるが店舗はそれほど大きくはなく、本や小さな部品とかあつても大きな物は無い。

一応、大きな部品とかも取り扱つており、お取り寄せとかを頼める。とは言え、お取り寄せや注文しようとも、お店は学園艦にある。学園艦は通常は海の上、それも常に進んでる。

すなわち、お取り寄せしてもすぐには届かない。

注文品がお店に着くには、学園艦が時々港に寄るときか連絡船とかで運ばれないといけない。

と言うことは、修理しようとも部品が無いと言う悲しいことが起ころのでは？

これは戦車道を復活させた大洗にとつて死活問題ではないかと、部

外者ながら思つてしまふ。

この疑問について聞いたところ、ツチヤ達の回答はこうだつた。

春休み中に生徒会長さん達が、どこからか基本的な部品を調達してたつて。

なので、自動車部に戦車道始まる前に修理等の依頼をしてきた段階で部品はあつたと。

恐らく連盟や学園艦教育局に相談でもして、買ってきたんじやないかとも。

おかげで基本的な物はそろつてるから、ありがたいって言つてたね。そう言えば、ちょっとした……まあ、細かいことは置いとくとしようか。

秋山さんと共に登校中、土日の事を話したり戦車道勧誘があつたりした。

戦車道勧誘はまあまと流した、外から見ると楽しんだけどね戦車道つて。

でも、実際するとなるとどうも……秋山さんには悪いんだけどね。そうそう、勧誘中の秋山さんに幻想だけも耳や尻尾が見えるのは内緒ね。

—

時間が進み、今は選択授業が終わつたところ。

本日の弓道はゴム弓や巻藁を使つた練習や的紙・安土と言つた直し方の説明とかがあつた。

時間いっぱいまであつたから今日は戦車道の方は見に行つてない。どんなことしたのかあとで、秋山さんから聞くとしよつと。

「そう言えば、この前の休みの日に秋山さん達が、買った物を置くとか言つてたつけ?」

いろいろと買つたと聞いたから、どんな戦車になつてゐるのか。

今からとても気になつてる私、秋山さんに聞くことが増えた。

車内がきつと、女の子の部屋っぽい部屋になつてそう。

「ふと思つたけど、秋山さん達の戦車以外も何か変化はないのかな？」

「どうなんだろう？」

この前に他のチームさんをパッと見た感じ、しそうな気がしてきた。

まあ、流石に戦車が目立つことはさせないとは思うから……させないよね？

小物買い物中に戦車を好きな色に塗る意見がでたと、秋山さんから聞いた時の事を思い出す。

……目立つたら駄目なんだけどなーっと、心の奥底でつぶやく私であつた。

特に書くことが無い、変わらない日々が続いていく。

私は、学園生活を中心で自動車部の様子を見に行つたり、戦車道の活動？を遠くから見る日々を過ごしてた。

戦車道のみんなは、日々の練習で戦車の扱いに慣れて行つた。初めて戦車に乗つたあの日と比べて、スムーズに動かしてる。そんな変わらない日々が流れしていく。
それでも、いつかはその時がくる。
そして、その時はついにきた。

「……ごめんだけど、もう一度言つてくれないかな？」

「そうよね、きっと聞き間違いなんだよ今のは。
だつて、まさかね。」

今聞いた話が本当か、信じられずに秋山さんに聞き直す。

さつきは自身が興奮しすぎて、聞きにくかつたのかと思ったのか、今度はゆっくり落ち着いて話してくれた。

そう、さつきと同じことをもう一度。

「そう、聞き間違いでなかつたのねさつきの」「本当にするんだ。あの聖グロと練習試合を」

「はい。今度の日曜日にあると昨日、生徒会長殿が」
つと。

ツチヤや秋山さんといっしょにお昼ご飯を食べてた私。
のんびりしてた私の動きが、一瞬止まった。

あの特別講習と模擬戦から少し日が経った、ある日のお昼のこと
だつた。